

## 令和6年度第2回春日井市観光によるにぎわい創出推進会議議事録

1 開催日時 令和7年3月17日（月）午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所 春日井市役所 10階 1007会議室

3 出席者

【会長】名古屋国際工科専門職大学工科学部 教授	佐藤 久美
【委員】中部圏インバウンドセールスプロジェクト 事務局長	赤崎 真紀子
春日井商工会議所 理事・事務局長	鈴木 夕雪
一般社団法人春日井市観光コンベンション協会 ゼネラルマネージャー	林越 宏治
【事務局】春日井市 産業部 部長	勝 伸博
経済振興課 課長	加藤 哲也
課長補佐	柳田 一哉
主査	柴田 知宏
主任	渡邊 優気
一般社団法人春日井市観光コンベンション協会	大矢 里美
	伊藤 陽子
【傍聴人】 1名	

4 議題

- (1) 令和6年度春日井市観光によるにぎわい創出事業補助金実績報告
- (2) 令和7年度春日井市観光によるにぎわい創出事業補助金変更点について
- (3) 観光によるにぎわい創出基本計画に基づいた事業の進捗状況について
- (4) 令和7年度以降の実行計画について

5 会議資料

次第・委員一覧・配席図

資料1 令和6年度春日井市観光によるにぎわい創出事業補助金実績について

資料2 令和7年度春日井市観光によるにぎわい創出事業補助金変更点について

資料3 春日井市観光によるにぎわい創出基本計画に基づく取組状況

資料4 アクションプラン一覧

資料5 観光によるにぎわい創出基本計画に基づく実行計画

資料6 令和6年6月7日のにぎわい創出推進会議にて承認いただいた中長期的な取組

資料7 今後の実施検討していく魅力発見イベント

## 6 議事内容

### (1) 令和6年度春日井市観光によるにぎわい創出事業補助金実績について

【事務局渡邊】 資料1に基づき説明。

【鈴木委員】 サボテン俳句ウォーキングは市外からの参加者の比率が高いが、その理由を教えてほしい。また、他の2つの事業についても、市外の参加者の比率がわかれば教えてほしい。

【事務局柳田】 サボテン俳句ウォーキングについては、俳句の講師のつながりで参加した人が多く、市外からの参加比率が高かった。三重県や岐阜県の瑞浪市、可児市などから参加した人もいた。

他の2事業については、参加者の市内外の比率の報告を受けておらず、わからない。

### (2) 令和7年度春日井市観光によるにぎわい創出事業補助金変更点について

【事務局渡邊】 資料2に基づき説明後、次の事項について委員に意見を求めた。

・本補助金を活用した旅行商品の造成にあたって、民間事業者が取り組みやすい制度設計（補助金額、内容等）

・今後、市が主体的に取り組む事業（民間にとって利益が出ない事業）の実施を検討しているが、当補助金の必要性について

【鈴木委員】 資料中の網掛け部分の令和5・6年度の補助対象となった事業で活用された地域資源「のみ」という記載はどのような意味か。愛岐トンネル群とサボテンの両方を活用した事業であれば大丈夫なのか。以前に地域資源を活用した事業を対象外にするのであれば、わかりやすくするために「のみ」を除いた方がいいのではないか。

【事務局柳田】 わかりづらいため、記載方法について検討する。

【佐藤会長】 同じ申請者ばかりにならないような工夫も必要だと感じる。

【赤崎委員】 春日井市としては、これまで活用されていない地域資源を活用した事業をやってほしいということか。

【事務局勝】 愛岐トンネル群やサボテン等、本当にそれだけしかないのかと感じる。正直、これまで活用されていない地域資源を活用した事業が来てほしいと考えている。

【佐藤会長】 例えばサボテン俳句ウォーキングと、サボテンを活用した他のいろいろ

な事業は、内容が違う。どのように評価するか。

**【林越委員】**       そもそもこの補助金の目的は民間事業者がツアー造成などを行うに当たって最初に背中を押すもの。申請が来ないということは収益が見込めないということではないか。他の地域資源が出てこないということは、お金にならないということ。これまでの補助事業についてもその後自走しておらず、継続して実施されていない。

**【事務局勝】**       エコ交通システムのような、今後に活用できるものもある。自走を後押ししている側面もある。これまでにない地域資源を活用した事業を期待する中で、「のみ」という言葉をつけたときに申請が来るのかといった懸念もある。

**【佐藤会長】**       サボテン俳句ウォーキングは、サボテンはあくまで題材なので、サボテンのみを活用した事業には当てはまらないのではないかと。

**【赤崎委員】**       そもそも、今後どのように事業を進めていこうと考えているのか。これまで活用されていない地域資源を活かした事業実施の可能性を検討したいということだが、その先どうなるのかを示してほしい。また、補助金の額が令和6年度の120万円から、令和7年度は60万円に減額となっている。その理由はなにか。観光によるにぎわいの創出を目的としているということであれば、予算が120万円から60万円に減額というのは、やはり後退という印象をぬぐえないと感じる。

**【事務局加藤】**       補助金の予算については60万円となったが、その分は職員自ら取り組む事業を実施することとしている。

**【事務局勝】**       補助金の有効性の判断を踏まえ、3年をベースに当補助金の必要性を検討したいと考えている。これまで当補助金で実施した事業は、今後も継続して開催するのは難しいと言っている事業者が多いが、にぎわいの創出に本当に効果的な事業であれば、補助金とは別に市で財源を確保して開催することも検討できる。もし今までやってきた事業の中で、これは継続してやるべきという事業が生まれてくるならば、例えば当会議にて審議の上で、市が事業化に向けて進めていくという方向性もあるかと思う。わいわいカーニバルなど、民間の事業から市の事業になった例もある。

**【佐藤会長】**       これまで活用された愛岐トンネル、公園、サボテンを対象外にすることによって、他の地域資源を活用した事業を考えてみようという機運が生まれる可能性はある。それが、これまでにない新しい発想の魅力創出につながるものであることが望ましい。

**【赤崎委員】**       市が主体となって実施するというのは、職員の体制的には大丈夫か。名古屋市や愛知県を見ていると、職員の数はずえ、財政的にも厳しいが、

やらないといけない仕事の量は増えているのを感じる。新しいことを始めるにあたって、こなせるか懸念する。

【事務局勝】 市が主体となってやる事業は、実施の部分を観光コンベンション協会に担ってもらえるのであれば、市は事業の発掘の部分が主になる。

【佐藤会長】 市民が一生懸命やってきたことを、市がそれを大事だということを認めて主体的にやるというのが理想的な方向でもある。ただ、それを大事にしてきた人達がいるので、その人達をちゃんと大切にしながら市が事業化していかないといけない。民間との共催というかたちは大事。

【林越委員】 民間にとって利益がでない事業を、産業部がやる意味があるのか。

【事務局柴田】 資料6「2 市、観光コンベンション協会の取組の方向性」のとおり、ハード整備、まちへの愛着の造成につながるにぎわい創出は市が主体で、地域産業の活性化につながるにぎわい創出は観光コンベンション協会が主体的に担っていくということで、前回の会議にて承認いただいている。市としては、まちへの愛着の醸成に主眼を置いた取組を行い、その中で、地域産業の活性化につながるような取組があれば、観光コンベンション協会、さらには商工会議所や関係団体と連携しながら事業を進めていくのが望ましいと考えている。

【林越委員】 観光によるにぎわい創出事業補助金の補助事業で活用する地域資源とは、計画に列挙されているもの以外は含めないのか。

【事務局柳田】 様々な可能性を探っていきたいと考えており、各々の観点で本市の地域資源と思うものであれば、認めることとする。

【事務局勝】 観光によるにぎわい創出事業補助金の対象事業について、皆さんのご意見を聞いて総合的に判断し、過去に実施された事業と同じ地域資源を活用している事業であっても、同様の事業でなければ対象としたい。

【佐藤会長】 皆さんよろしいでしょうか。それでは、これまでと同様の事業でなければ対象とすることにします。

### (3) 観光によるにぎわい創出基本計画に基づいた事業の進捗状況について

【事務局柴田】 資料3、4に基づき説明。

【佐藤会長】 観光に関することは全て経済振興課が担っているというわけではなく、他の部局も含めて取り組んでいることがこの資料から読み取ることができる。未実施の事業についてはどのように考えているか。

【林越委員】 実施する土台ができていなければ、いきなり事業だけ進めても仕方ないのではないか。例えば1-6-4の「春日井観光ガイドタクシードライバーの人材育成」とあるが、少し前に民間事業者がタクシーツアーを実施した際、

おすすめの観光スポットがきちんと定まっていなくて、案内が難しいと運転手から言われたことがある。土台を整えてからだと感じる。

【佐藤会長】 目標が見えれば、何をやらないといけないのかということにもつながるため、土台がないからできないということではなく、土台と目標の両方を見据えた取組が必要。

【赤崎委員】 サボテンや愛岐トンネル群のような、これまでの採択事業と同じ地域資源ではなく、新しい可能性を探りたいという気持ちもわかるが、観光で成果をあげるのであれば、一つのテーマを深掘りしていく、「サボテンのまち春日井」と掲げるのであれば、サボテンのことに集中していく方がよいのではないかと感じる。

【佐藤会長】 実施事業の報告書の内容から、何が足りなかったのかや改善点など、そういった反省点の集約が必要ではないかと感じる。イベントだけでなく、ハードの部分で何か足りないということもある。情報提供の部分での工夫などが必要で、イベントだけでは観光はつながらないと思う。例えば、JR春日井駅から市役所への行き方がわかりづらいため、表示の工夫が必要と感じた。漢字ばかりで外国人はよりわからないため、アルファベットでのサインの表示なども必要と感じる。

【事務局勝】 まちづくり部門として、バスの便数やルートについての議論はあるが、市外からの来訪者に対する工夫などといった観光面から見た議論はあまりなかった。

【佐藤会長】 ハード、ソフトの両面での議論が必要。タクシーの運転手を育てる前に、タクシーに乗らなくても行けるようなアクセスの整備もできるとよい。

【赤崎委員】 補助金の募集を行うにあたって、これまで活用されてきた地域資源を示して、それ以外の地域資源を活用できる事業があれば提案してほしいと明確化したほうがいいのではないかと感じる。また、未実施のところに宿泊施設と連携したツアー造成とあるが、宿泊施設がどこにあるのかや、宿泊施設ということは宿泊してもらいたいのかなど、はっきりとしていないことを明確化した方がよいと感じる。

【事務局加藤】 計画では、市民や近隣住民が遠出をしなくても、身近で余暇や趣味を充実させることができる体験や時間を提供するというのが基本方針となっている。

【赤崎委員】 愛岐トンネル群もやはり計画を策定した3年前と今とでは、認知度も違う。オーバーツーリズム対策も行っていく必要があるが、愛岐トンネル群保存再生委員会が単独でできることではないため、自治体が一緒にやっていかなければいけないと思う。ぴよりんが非常に人気。春日井市で製造しているとい

うのは大きなバリューであるため、もっと活用してほしいと思う。

【林越委員】 先日、スタートアップ企業と組んでサポテンコンテンツを巡るモニターツアーを開催した。東京からモニターに来てもらったが、観賞用だけでなく食用など様々なことをやっており、もしかしたら東京からも人を呼べるようになるかもしれないという声もあった。

【赤崎委員】 まだまだインバウンドの知名度もそんなに高くなく、セントレア1人負けと言われている状況。そういう意味では、近隣の町と連携してするという事は非常に大事。

(4) 令和7年度以降の実行計画について

【事務局柴田】 資料5、6、7に基づき説明後、次の事項について委員に意見を求めた。

- ・観光コンベンション協会が取得予定の地域限定旅行業を活用し魅力ある観光商品を造成するにあたってのポイント
- ・長期的な取組（施策1－6）にかかる人材の発掘・育成の手法について

【佐藤会長】 魅力ある観光ツアーの造成について、資料7を見ると、行きたいと思うものがたくさんあり、春日井市の可能性を感じる。

【事務局勝】 以前、市政教室という名前で、市民を集めて市の公共施設を回るような事業を実施していた。市内で就労している外国人が家族で参加できる、市内をより知ってもらえる機会があると、安心して家族と住めるまちとして就労意欲にもつながると、佐藤会長が言っておられたと報告を受けている。

【鈴木委員】 魅力ある観光ツアーの開催というのは、市外から参加者を呼び込めるというイメージで私は受け止めている。例えば、近くに県営名古屋空港があり、FDAを春日井市から旅行へ行くために利用する人は多いが、春日井市を目的地として飛行機で来る人はほとんどいない。これを見たいから行きたいという、そこまでの観光スポットが春日井にはなく、例えば札幌市の人が春日井のサポテンでも見に行こうかなっていうところまではまだ思ってもらえる状態ではないと感じる。飛行機を使って遠くからでも参加したいと思ってもらえるような観光ツアーを作ることが大事ではないか。例えば、犬山城など目玉となる場所を設けて、犬山城、春日井市のサポテン、ジブリパークを回るなど、通過点の一つという形でないとなかなか、他市から春日井に誘客するのは難しいと感じる。愛知県尾張観光推進協議会という尾張地域でネットワークを組んで活動している組織があるため、近隣の地域と連携しながら、春日井市にもポイントの一つ設けた取組を行うのがよいと思う。

【佐藤会長】 春日井市は名古屋市や犬山市へもアクセスしやすいといったPRを含めて、近隣と連携しながらFDAの就航地の人に春日井市の魅力を伝えるようなツアー

一を開催するとよいと思う。

【事務局勝】 FDA は花巻や山形などの就航地でバスツアーの開催等を行っている。春日井市に行きたいと思ってもらえるような市内のコンテンツを強化していくことで、そういった開催にもつながると思う。

【佐藤会長】 書は外国人に人気。春日井ならではの書の体験ができる催しを開催すると外国人が集まるかもしれない。また、漢字が世界的に流行しているため、漢字を掛け合わせたツアーの造成もよいかもしれない。

【赤崎委員】 計画の基本方針の「余暇」や「趣味」をテーマとして、春日井だからこそ体感できる充実した「コト」や「トキ」の提供とあるが、観光分野は社会的に次のステージに来ていると思う。考え方の整理をする必要もあるが、まずはどこからどんな人に来てもらいたいのかということを整理し直す必要があると思う。どこから来てもらいたいのか、エリアごとの整理も必要。また、資料7を見ると、サボテンだけでなくぶどうの栽培も盛んだったり、愛知ブランドの認定企業を含め様々な企業があったりする。それを組み合わせたり、焦点を絞ったりしながら、春日井市が主導でよいと思うので、事業者を巻き込んで取り組んでいくこともできる。やはり地域資源の中でも愛岐トンネル群、サボテン、ぴよりんはアピール度が高いと思っている。成果を出そうと思ったら、アピール度の高いものを集中的に持続的に取り組む必要がある。情報発信等、考え方の整理を一度してもいい時期に来ているのではないかな。

【佐藤会長】 集中と選択が必要だが、一つのことに集中するのではなく、小学生向けなのか、外国人向けなのか、市民向けのかなどターゲットに様々なバリエーションがあってもいいと思う。

【林越委員】 ツアー造成の一つの案として、春日井市にはリニア新幹線のトンネルが、横穴一つと縦穴3つある。リニアが開業し入ることができなくなる前に、リニアトンネル見学ツアーや、愛岐トンネル群とトンネル繋がり「新旧トンネルを歩こう」といったイベントを開催できたらと考えている。

【佐藤会長】 次に、人材の発掘育成と手法の提案をお願いいたします。

【赤崎委員】 それこそ市役所の中だけの人材ということだけではなく、市民の中でということか。

【事務局柴田】 もちろんすべての可能性も含めて考えている。

【佐藤会長】 ガイド育成をやった方がいいと思う。市がガイドを組織している自治体もある。例えば、バスを用意して市内を回ってもらいながら春日井の魅力を感じてもらい、ガイド育成につなげるといったこともいいかもしれない。

上記のとおり、令和6年度第2回春日井市観光によるにぎわい創出推進会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席委員のうち1名が署名する。

令和7年 月 日

会 長 佐藤 久美

署名人 赤崎 真紀子